

# 令和2年度 学 校 評 価 報 告

草加市立高砂小学校

(令和3年2月1日作成)

<b>1 学校教育目標</b>	
◎学校教育目標	あかるく かしこく たくましく
○キャッチフレーズ	笑顔・やさしさ・パワーあふれる学校 高砂小
<b>2 重点目標・努力目標</b>	<b>3 前年度の成果と課題</b>
○「魅力ある授業」－児童が意欲的で主体的に取り組む－を実践する	○研究を進める中で、系統性を意識した指導が児童の自己肯定感向上につながった。
○児童が主体的に目標を設定し、力一杯運動できる体育授業をつくり上げる。	○コミュニティスクールの実施に向けて、読み聞かせや算数タイムの学習ボランティア活動、地域主体の地区参集訓練など活動が充実していた
○「特別の教科 道徳」を中心に全教育活動を通して他者を思いやる人間関係を形成する。	●引き続き、チームとして学校教育の効果が最大限に発揮されるよう努める。
○幼保小中を一貫した教育を推進する。(瀬崎中学校区)	●家庭・地域とともに、児童を育てるために開かれた学校づくりのさらなる推進を図る。

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]			
領域	評価項目	評価の観点	評価
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営目標、方針</li> <li>校務分掌組織</li> <li>適所への適材配置</li> <li>職員会議等の運営</li> <li>予算の執行・決算、監査等</li> </ul>	A
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究組織、計画、実施</li> <li>校内研修の推進</li> <li>授業改善への取組</li> <li>校外研修会への参加</li> <li>人材育成</li> </ul>	A
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健計画、安全計画</li> <li>環境衛生の管理</li> <li>健康観察、安全点検</li> <li>緊急事態発生時の対応</li> <li>危機管理マニュアルの作成・活用</li> </ul>	A
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報の管理、保護</li> <li>施設設備の管理と有効利用</li> </ul>	B
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校情報の発信</li> <li>学校公開の実施</li> <li>学校運営協議会の推進</li> <li>地域、校種間連携</li> <li>PTA活動の活性化</li> </ul>	A
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す子ども像の共有</li> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成</li> <li>一貫教育推進のための組織づくり</li> </ul>	B
		成果と課題	○成果 ●課題
		○学校経営方針が全職員に浸透し、教職員が一丸となって教育活動に専念することで教育活動を着実に推進できた。	●大規模校であり、職員の異動が非常に多いため、今後も情報共有の機会を確実に設け、共通理解を進めていきたい。
		○自己肯定感・自己有用感を育む授業改善を目指して、研究活動を推進できた。授業公開週間など、教員の学び合いも定着した。	●令和3年度の研究発表に向けて、瀬崎中学校区内の各校がさらに連携して、研究を進めていきたい。
		○複合施設として、保育園・コミュニティセンター・児童クラブとの合同避難訓練を実施し、実践的な訓練ができた。不審者対応研修会を実施し、不審者対応訓練も実施予定である。	●引き続き、児童が自ら判断して、命を守る避難行動ができるようにしていきたい。
		○情報管理・施設設備管理について日頃より危機意識をもって取り組むことができた。校務支援システムも効果的に活用できた。個人情報管理簿を活用して、適正な運用をすることができた。	●施設や機材の不備で若干支障をきたす場面が見られた。各主任を中心に管理の徹底を進めたい。
		○学校ホームページやメールシステムを積極的に活用して、学校の様子を周知することができた。学校運営協議会の意見も取り入れた調和のとれた学校運営を進めた。	●学校応援団組織を見直し、地域との連携を進めていきたい。
		○中学校区の会議で各々の学校で今年度実施した教育活動の進捗状況を確認するとともに、中学校区の目指す児童生徒像の実現のため、本校における取組を推進できた。	●コロナ禍において、幼保との交流活動が難しい面があった。本校の授業公開についてお知らせするなど、授業に関わる取組を充実させたい。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>15年間を通じたカリキュラムの編成、実施</li> <li>教育計画の作成</li> <li>教育活動の評価</li> <li>目標、方針の周知</li> <li>授業時数の配当、確保</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍の下、柔軟なカリキュラム編成に努めて、ピンチをチャンスに充実を図ることができた。</li> <li>●教育目標の具現化に向けて、教員が一丸となり教育活動を推進していきたい。</li> </ul>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>外部人材の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領の趣旨に沿って、主体的、対話的で深く学べる授業づくり、考えを深める発問の工夫を進めた。</li> <li>●学力向上プランに基づく教科指導の徹底をより一層進める。</li> </ul>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体計画の作成</li> <li>各教科との関連</li> <li>道徳的実践力の育成</li> <li>家庭、地域社会との連携</li> <li>いのちの教育の推進</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○研修主任、道徳教育推進教諭を中心に道徳研修等を実施し、授業の充実を図っている。</li> <li>●引き続き新指導要領に沿った授業改善を進める必要がある。</li> </ul>
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価、評定の工夫</li> <li>各教科、道徳教育との関連</li> <li>中学校との連携</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ALTと3～6年担任が教材を実際に使いながら授業を行った。打ち合わせをしながら、外国語・外国語活動を実践することができた。</li> <li>●外国語活動の評価について、研修を進めたい。</li> </ul>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>学級活動、学級経営</li> <li>学校行事</li> <li>児童会活動</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナ禍により、特別活動の様々な行事について中止にせざるを得なかった。そのような中でも活動を工夫して、児童の意欲を高める取組を行った。</li> <li>●特別活動の授業づくりの基礎を校内で共有していきたい。</li> </ul>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導計画の立案</li> <li>指導内容の充実</li> <li>指導方法の工夫と改善</li> <li>評価の工夫</li> <li>地域の人材・物的資源の活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストティーチャーなどを効果的に活用し、体験的な活動を行うことで、ねらいを達成することができた。</li> <li>●PDCAサイクルを活用して、学習内容の見直しなどを進めていきたい。</li> </ul>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導</li> <li>問題行動への対処</li> <li>教育相談、児童理解</li> <li>いじめ防止対策</li> <li>保護者、地域、諸機関との連携</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○子ども支援委員会で、児童に関する情報を共有し、それを指導に生かすことができた。SSWやさわやか相談員にも参加を呼びかけて、多角的な協議を進めることができた。</li> <li>●引き続き学校内における、生徒指導の徹底、ルールの共通理解を進めていきたい。</li> </ul>

⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画の立案</li> <li>・指導内容の充実</li> <li>・中学校との連携</li> <li>・啓発的経験の充実</li> <li>・家庭、地域との連携強化</li> </ul>	B	<p>○当番活動をはじめ様々な活動をキャリア教育の視点で捉え、活動することができた。</p> <p>●各学年の実態に応じた資料等を用いながら、キャリア教育の充実を図る必要がある。</p>
⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画、支援計画</li> <li>・指導方法の工夫と改善</li> <li>・通常学級との交流</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・校内支援体制の整備</li> </ul>	B	<p>○児童一人一人の実態を把握し、諸機関との連携を図りながら、教育を推進することができた。草加かがやき特別支援学校との連携も進み、巡回相談や高等部カフェ交流などを行った。</p> <p>●特別な支援を要する児童への理解、対応の仕方についての研修をさらに充実させる必要がある。</p>
⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画、支援計画の作成</li> <li>・図書館補助員の活用</li> <li>・諸機関との連携</li> <li>・図書館の整備</li> <li>・図書館利用の工夫</li> </ul>	A	<p>○校長から手渡される読書賞状を励みにしている児童が大変多かった。</p> <p>●親子読書など、家庭を巻き込んだ取組の充実を考えていく必要がある。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育計画の作成</li> <li>・校内研修の充実</li> <li>・ICT機器の積極的な活用</li> <li>・情報モラル教育の推進</li> </ul>	B	<p>○ICT支援員と綿密に連携することで、新たな視点から授業づくりを行うことができた。</p> <p>●プログラミング教育の充実に向けて、研修を進めていきたい。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体計画の策定</li> <li>・各教科との関連</li> <li>・人権感覚の育成</li> <li>・校内研修の充実</li> </ul>	B	<p>○校内研修等を通じて、教職員の人権教の関心が高まった。</p> <p>●人権教育の充実を目指し、全体計画を基に、様々な機会を通じて啓蒙していく必要がある。</p>

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学校教育目標 あかるく かしこく たくましく の具現化	・指導計画の立案 ・組織的な対応 ・基本的生活習慣の定着	B	○学校全体で学校教育目標の具現化を図るために、共通理解・共通行動ができた。児童は落ち着いた学校生活を送っている。 ●挨拶の日常化を目指し、挨拶ができるように年間目標を掲げているが、課題が残る。また、学力向上、体力向上を目指し、教科担任制や交換授業を取り入れるなど、チームでの指導体制を強化して、教育活動の充実に努める。
	②開かれた学校 家庭・地域・社会との連携	・計画の立案 ・環境整備 ・人材の活用	B	○学校運営協議会の充実を図り、意見を学校運営に取り入れることができた。ホームページやメールシステムを活用して、学校の様子を周知することができた。 ●総合的な学習の時間や生活科、クラブ活動などで活用できるよう、学校応援団の充実を図りたい。
	③働き方改革を柱とした業務改善	・時間外勤務削減 ・校務の精選 ・環境整備	B	○働き方改革の目的や意義を共通理解して、教員の意識改革を図った。校支援の活用、室内のレイアウトの効率化も進めるなどしたことにより、限られた時間内で効率よく校務が運営されるようになった。 ●今後も学校教育の改善及び充実を目指し、草加市の新しい教育活動を高砂小から発信できるように努める。

**5 総合評価** (学校関係者評価を含む)

- ・制限がある中でも子どもたちが安全・安心で楽しく学校生活を送れるよう、工夫しながら教育活動を進めている。
- ・校長のリーダーシップの下、教職員が一丸となり、和を大切にチーム高砂小になっている。
- ・校内研修の充実が児童の自己肯定感・自己有用感を育み、落ち着いた学校生活につながっている。
- ・コロナ禍において学校運営も困難な面があったが、保護者や地域の理解を得ながら、チームとして考えを出し合い、ピンチをチャンスに変えている。

**6 次年度の改善策**

- ・人事評価制度を効果的に活用し、様々な職員の得意分野をふまえて、一人一役の校務分掌に生かしながら、チームとして学校教育の効果が最大限に発揮されるよう努める。
- ・学校運営協議会の充実を図り、家庭・地域とともに、児童を育てるために開かれた学校づくりのさらなる推進を図る。
- ・教科担任制等、チームで児童の指導に当たることができる環境づくりを進める。
- ・働き方改革及び業務改善をさらに進め、教材研究、授業の充実から学力の向上につなげる。